

# 職場体験レポート

作成者

愛南町立城辺中学校



3年 氏名：飯田 航平

## 職場の 安高水産 紹介

創業：昭和52年

住所：愛南町

愛媛県南宇和郡愛南町深浦1888

従業員：40人

タブレットを用いて餌の量や鯛の状態を記録し、品質の良い安心安全でおいしい鯛を育てている会社です。出荷先は関西を中心とした市場です。また、餌の改良にも取り組んでいます。



こんな職場です！

事業所の写真



## 職場で体験したこと



朝6：10から職場体験学習が始まりました。

まず、1日目は、稚魚の検量と稚魚の餌やりを体験しました。稚魚の検量では、一匹あたり何グラムの鯛かを計算し、それに適した量の餌をやりました。餌の重さは一袋20キロと重く、次の日には筋肉痛になっていました。2日目は、沖に行き出荷前の鯛や、成長した大きな鯛の餌やりをしました。沖の魚の餌やりは、クレーンを使って網を持ち上げ、バズーカという機械で行い、魚の餌の食べ具合に応じて餌の量を変えていました。いけすによっては、1トンも餌をやっているのに驚きました。鯛は渦を巻きながら食べていました。3日目は、鯛の出荷をしました。まず、生きている鯛を持つことから始め、出荷ケースに詰めていくことをしました。初めて鯛に触りました。鯛を持つと暴

れだして何回も落としてしまいました。そこで、暴れない持ち方を教えていただき、落とさずに持つことができました。大きいもので3キロ以上の鯛もいました。4日目は、鯛の締め出荷を体験しました。鯛の急所を刺し暴れないようにして、サイズごとにかごに入れ出荷します。5日目は、1日目と同じで、稚魚の餌やりしましたが、慣れてきてスムーズに仕事をすることができました。



## 体験学習を通して



### うれしかったこと、うまくできたこと

仕事に慣れてくるにしたがって、稚魚への餌やりをスムーズにすることができました。

鯛を詰めるときにどのようにして入れるとよいか順番を考えたり向きを考えたりしてきれいに詰めることができました。

### 大変だったこと、失敗したこと



鯛を手で持ったときに、鯛が暴れたため床に落として傷を付けてしまい、商品にならなくなりました。また、網を引っ張って魚を端に寄せることや、餌の袋を運ぶのが重くてとても大変でした。

## 感想



### 働く人の姿から学んだこと

素早く行動している姿や、人間関係の大切さなどを学ぶことができました。また、魚について細かく記録を取り、それを基に、魚の状態を探り病気を発見するなど、自分の仕事に責任を持って取り組んでいることがわかりました。

### 全体を通して学んだこと



けがをしないように安全に仕事をするためには、声を掛け合って、みんなで協力して進めていくことが大切だということがわかりました。また、仕事の大変さを学ぶとともに、職場の雰囲気が良いことが、仕事の能率にもつながることを学びました。